

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	伝熱小委員会	主 査 名：宿谷 昌則 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)	委員長名：佐土原 聡 主 査 名：宿谷 昌則
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・ 建築の伝熱問題に関わる研究開発・性能検証・評価を幅広く取り上げる。</p> <p>・ 具体的には、窓・壁など伝熱の基本問題、これらを総合したファサードエンジニアリングの問題、建築と都市とのインターフェースの問題、建築と設備とを一体に捉えたエネルギー・資源の有効活用などに関する問題を取り上げる。</p> <p>2012 年度：各 WG の研究をまとめて、熱シンポジウムを開催する。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：宿谷 昌則(東京都市大学) 幹事：西岡 真稔(大阪市立大学) 委員：浅輪 貴史(東京工業大学), 一ノ瀬 雅之(東京理科大学), 猪岡 達夫(中部大学), 菊田 弘輝(北海道大学), 長井 達夫(東京理科大学), 長谷川 兼一(秋田県立大学), 井上 隆(東京理科大学), 秋元 孝之(東京都市大学), 藤井 晴行(東京工業大学), 尾崎 明仁(京都府立大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>[熱環境システム WG]： 建築と空調を総合的なシステムと捉え、新しい視点で空調空間の熱環境設計を行うための手法を検討する。</p> <p>[熱性能評価 WG]： 空調・換気に関わる二酸化炭素排出・エネルギー消費の抑制と、室内温熱環境の向上を最終的な目的として、建物外皮性能、室内温熱環境性能等に関わる評価手法の整理・検討を行う。</p> <p>[都市・建築環境 WG]： 建築と都市熱環境の相互影響を明らかにする視点から、建築の伝熱問題を、外部環境も含めて一体の伝熱系へと拡張してゆく研究課題を中心に取る。</p>	
2012 年度予算	190,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s13/

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	第 42 回 熱シンポジウム「将来の建築・都市熱環境とくらし」 参加者数 109 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 2012年度は3WGの活動成果を中心に、委員会外からの講演者の参加も得て熱シンポジウムを開催した。(達成度 90%) 2. 小委員会およびWGの活動について、WEBにより公開している。(70%)
委員会活動の問題点・課題	委員会メンバーの多忙化が進んでおり、今後の委員会運営方法に工夫が必要とされる

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2012年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>4年間の小委員会活動期間において、3WG各々の目的に沿って活動した成果をもとに、今日的テーマとして「将来の建築・都市熱環境とくらし」を選定して、2012年12月にシンポジウムを開催した。シンポジウム開催については、小委員会設置時から計画されていたこともあり、時間を十分かけて議論し準備した後、開催に至った。一方、小委委員会活動の公開については、議事要旨の公開が主であり形式的な内容に留まった。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。